

水の郷大つり橋長寿命化修繕計画 (個別施設計画)



水の郷大つり橋

令和7年3月策定

— 目 次 —

1. 長寿命化修繕計画の目的	1
2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	1
3. 計画期間	1
4. 健全度の把握及び維持管理に関する基本的な方針	1
5. 長寿命化修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針	2
6. 対象橋梁の点検及び修繕	2
7. 長寿命化修繕計画による効果	3
8. 橋梁長寿命化修繕計画の検証	3

1. 長寿命化修繕計画の目的

(1) 背景

水の郷大つり橋は、日常パトロール等により適切な維持管理に努めてきました。

しかし、建設（1995年）から30年が経過し、老朽化による架替え費用が増大することが予想されるため、厳しい財政状況が続く中、合理的かつ効率的な手法による橋梁の維持管理が強く求められています。

そこで、従来の「事後保全（対症療法）」から「予防保全」へ管理手法を転換するとともに、アセットマネジメントの手法を導入し、橋梁の効率的な管理によるコスト縮減を図るための基本方針を策定しました。

(2) 目的

橋梁の長寿命化や維持管理費用のコスト縮減を図るためには、劣化が顕在化したあとに行う「事後保全の管理」ではなく、劣化の兆候がまだ表れていないか、あるいは表れ始めた時期に予防的な修繕を行い、対策規模が大きくなることを避ける「予防保全の管理」を着実に行う必要があります。

定量的なデータの蓄積を行ったうえで、予防的に橋梁の長寿命化を図り、保全・更新費を低減、平準化することにより、将来にわたって適切な機能水準を維持するための計画とするものです。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

水の郷大つり橋 橋長 335m（塔柱間 315m+支間 20m） 幅員 1.5m

3. 計画期間

計画期間は、5年に1回の定期点検のサイクルを踏まえ、2025年度から2034年度（令和7年度から令和16年度まで）の10年間とします。

なお、点検結果等を踏まえ、適宜、計画の見直しを行います。

4. 健全度の把握及び維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、橋梁の架設年次や立地条件等を十分考慮して実施するとともに、国土交通省橋梁定期点検要領（または神奈川県橋梁定期点検要領）に基づいて定期的に点検を実施し、橋梁の損傷を早期に把握します。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール等を随時実施します。

5. 長寿命化修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

予防的な修繕等を実施することにより、修繕等に係る費用の低コスト化を図り、トータルとしてのライフサイクルコストの低減を図ります。

6. 対象橋梁の点検及び修繕

今後10年間で実施する対象橋梁の点検及び内容は、次のとおりとします。

なお、具体的な点検時期及び修繕内容、金額等については、今後の点検結果により変更となることがあります。

年	内容	金額（千円）
2025年	床板取替	34,969
2026年	床板取替	34,969
2027年	点検	7,271
2028年	床板取替	34,969
2029年	床板取替	34,969
2030年	床板取替	34,969
2031年	支承補修設計	6,941
2032年	支承補修	27,936
2033年	点検	7,271
2034年	塗装・ひび割れ補修設計	6,941

(1) 点検について

橋梁点検は、橋梁定期点検要領（国土交通省または神奈川県）により、5年に1回の頻度で実施し、対策区分を判定することにより、橋梁の健全性をⅠ～Ⅳに分類します。

状態	健全性	対策区分判定	
良	Ⅰ	A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
		B	状況に応じて補修を行う必要がある。
	Ⅱ	C1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
		M	維持工事に対応する必要がある。
↓ 悪	Ⅲ	C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
	Ⅳ	E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。
		E2	その他、緊急対応の必要がある。
	/	S1	詳細調査の必要がある。
		S2	追跡調査の必要がある。

(2) 修繕について

橋梁において、予防保全型では、対策区分が「C1」と判定された主要部材について、本計画に基づいて順次、修繕を実施することを基本とします。

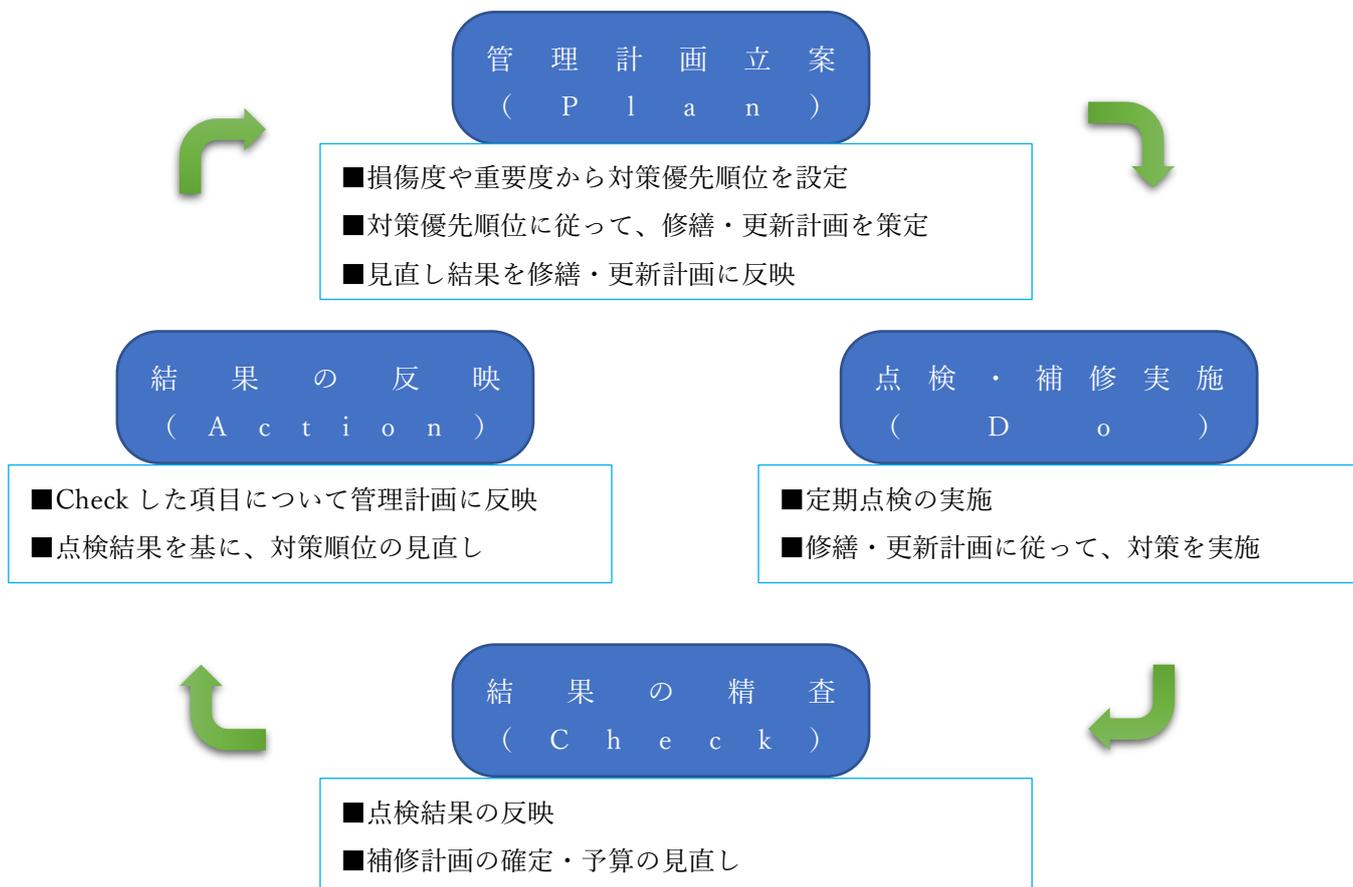
なお、今後10年間に修繕等を実施する内容については、定期点検等の結果により、対策時期や修繕内容を変更することがあります。

7. 長寿命化修繕計画による効果

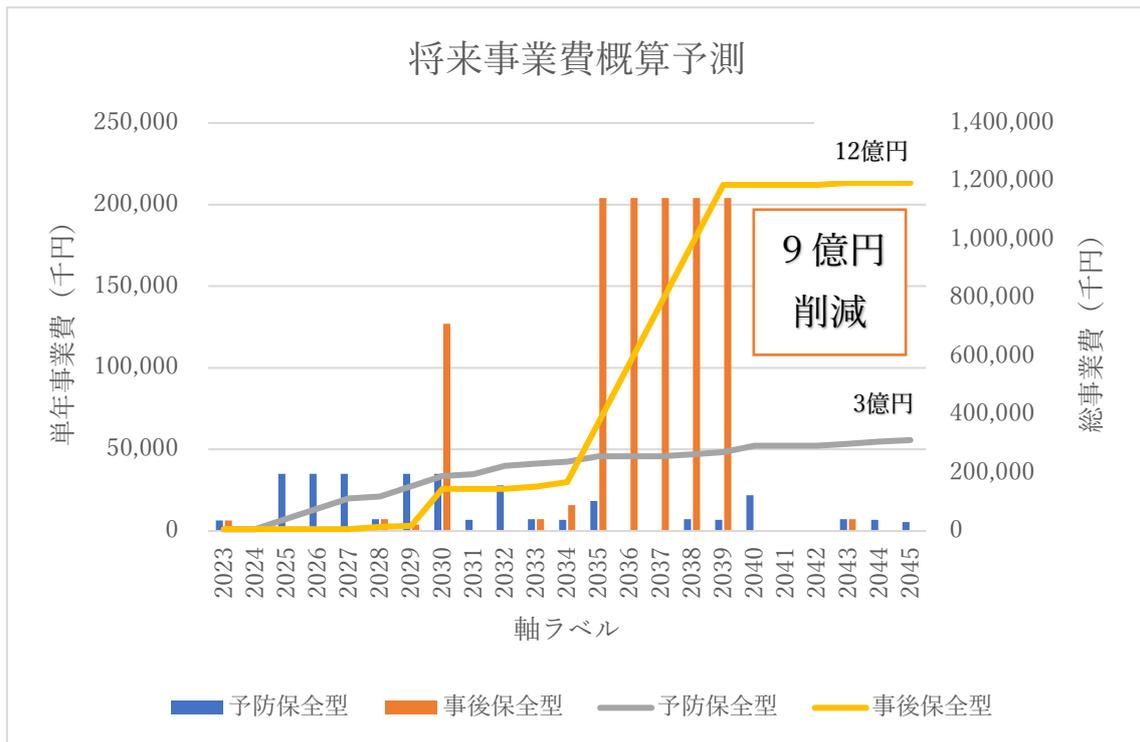
修繕及び架け替えに要する経費については、2045年度までに約9億円の縮減効果が見込まれます。(別表「予防保全と事後保全の将来事業費概算予測」参照)

8. 橋梁長寿命化修繕計画の検証

PDCAサイクルを確実に実行することで、計画的かつ効率的な橋梁の長寿命化を図ります。



別表「予防保全と事後保全の将来事業費概算予測」



上記経費の算出については、今後、橋梁の定期点検データを蓄積していくことで、さらなる経費の縮減が図れるため、現在の数値が固定されるものではありません。